

改革から成長へ

～マニフェスト2011～



●海老名市長 内野 優
無所属。昭和30年10月13日生。上郷三丁目在住。妻（葉子）と二人暮らし。趣味は読書・映画鑑賞。昭和58年から4期にわたり海老名市議会議員を務め、平成15年12月より現職となり、現在3期目。



市民の皆さんからのご支持により、3期目の当選を果たすことができました。引き続き市政運営の舞台に立たせていただくことになり、その責任の重さをあらためて感じています。

市長選挙にあたり私が掲げたマニフェストは、市民の皆さんとの約束であると考えています。今後、私のモットーとする「現地現場主義」とともに、市民の皆さんに十分な説明を行いながらマニフェストを進めてまいります。

海老名市を「未来への成長軌道」へと乗せ、「海老名市の新時代の幕開け」を皆さんに実感していただけるよう全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

安心・安全な
まちづくり宣言

3月11日の東日本大震災を契機に、安全・安心面、とりわけ災害対策への関心が非常に高まっています。

海老名でも、多くの帰宅困難者が発生するなど大きな混乱が occurred。今後、防災計画の見直しのほか、新たな避難場所の確保、備蓄品の充実を目的とする大型備蓄倉庫の建設、避難所全施設への自家発電の設置などを実施します。また災害対策を迅速に進めるため、高所に防災カメラを設置します。

一方で、防犯や交通安全にも取り組む必要があります。これからも啓発活動などにより、犯罪件数や交通事故件数の減少を目指していきます。

新年のごあいさつを

申し上げます

無心

市民の皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、市政につきまして、温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、未曾有の大地震により日本中が打撃を受けた年でありました。当市においても多くの帰宅困難者・駅滞留者を出したほか、その後実施された計画停電や節電対策、原発の

積極的にPRいたしました。

そして11月には、市制施行40周年という節目を迎えました。市制施行当時は4万8000人余りだった人口も今や12万8000人に達しており、また市の特長である交通利便性はますます高まっています。海老名の発展を実感するとともに、これを持続していくことの必要性を強く感じています。そのためには支える「人」が元気でなければならないと思っています。

問題など、今も大きな影響・課題を残しています。

そういった状況の中、当市は姉妹都市である宮城県白石市をはじめ被災地への支援を積極的に行ってまいりました。また「明日へ！未来へ！！東日本へ！！海老名の元氣をとどけよう！」をスローガンとして掲げ、えびな市民まつり、花火の打ち上げも例年通り実施するなど、自粛ムードが広がる中でも海老名の元氣を

平成24年は、市民の皆さんが元気でいられるよう健康づくりの拠点となる健康増進棟の設計や各種検診による予防医療の充実などに取り組むほか、海老名駅から羽田空港へのリムジンバスの運行など、まちづくりの施策も引き続き実施してまいります。

毎年、その年1年間への決意を漢字に託していますが、ことしは「無心」を選びました。これには、今起こっていることを受け入れ、すべきことを即実行する、という思いが込められています。この姿勢をもって市政運営に取り組んでまいります。

結びに、皆さまにとってことが素晴らしい年となりますよう祈念し、あいさつとさせていただきます。

平成24年正月

海老名市長 内野 優

